

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員 (4期連続トップ当選)

〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
☎ 042-795-7361 (FAX: 必
要に応じて186を頭に加える)
議会 042-724-2171
yoshidaben@gmail.com



地域電子マネーと地域ポイントのカード

地域に循環する経済はどのように可能なのか、地方政治にとっては最も重要な課題の一つではないでしょうか。現実にはGAFAにそれが寡占されているか、ヤフーや楽天にその取引の大半を託されてしまっており、地方はものを作ってそれを出荷するのみになっているのが実状ではないでしょうか。それをできるだけ地方に還元するそうした機能を持った電子マネーが可能なのか、あるいは真に拡大できるものか、「日本カード」の事業に興味を持ちました。



自治体・公共 Week2023 (東京ビックサイト) の地方創生 EXPO のコーナーのブースで、日本カードの担当者の説明を聞きました。実施エリアは東日本を中心に進んでおり、商店街を主体にしていますが、地方自治体にも導入されているとのことでした。加盟店で現金を入れ、カードをチャージする方法が取られおり、最寄りの販売店がその実施店になるものですが、加盟店の協働事業化の観点が優れていました。

今は何を造る：グローリー工業

グローリー工業は、硬貨や紙幣を自動で数える機械を造るメーカーと承知していました。スーパーや小売店の店頭で一般的に見かける金銭処理機のトップ企業ですが、デジタル化が進み、硬貨や紙幣を取り扱う機会が急速に減少する中で、これからの時代、このグローリー工業がどのようなところに力を入れて行こうとしているか、関心を持ちました。

今回見学をした自治体・公共 Week2023 (東京ビックサイト) の案内では、クラウド方式の鍵保管管理システムが展示されていました。硬貨や紙幣の読み取り技術を応用した顔認証の分野に進出した製品の説明を聞きました。町田市庁舎の場合は、全て人が管理する有人管理方式で、こうした施設の無人管理を提唱しているわけです。



特定の分野で圧倒的なシェアを誇ったメーカーが、その分野自体が時代の流れで必要とされなくなった時、どのような方法で業態転換を図っていくのか注目したいと思います。その典型例をグローリー工業の出展に見ました。

- 支持政党なしの方々の代表＝吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。
- 吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。
- ◎町田市内企業が開発した「水耕栽培メロンの世界一決定戦」を開催しよう！
- 吉田つとむは令和4年2月実施の市議会議員選挙で、4期連続のトップ当選を果たしました

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(4期連続トップ当選)

吉田つとむ



ブログ 個人HP

メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、
夏季の第52期生を募集開始

次世代通信技術とソリューション展見学①

第1回次世代通信技術&ソリューション展をビックサイトで見学しました。参加企業は、話題の5G・6G通信技術、5G・6G材料、映像伝送、次世代通信ソリューション、光通信技術(FOE)というようにエリアわけされていました。5G・6Gの通信技術、材料のエリアには、無数の企業が参加していました。金属素材、カーボン素材、その他樹脂類などの各種素材のメーカーが様々な部材を用意し、通信技術のメーカーが大から小まで並んでおり、現場では判別できない膨大さでした。

その中で、日本ガイシと日本特殊陶業が別会社で、日本ガイシから日本特殊陶業が分離したことを再認識しました。どちらも、NGKが使われています。それらが、TOTO(旧東洋陶器)や洋食器のノリタケが同じ森村グループであることを意味しているもので、森村学園(横浜市緑区)も同じグループになっています。

また、会場内には、中国や台湾のコーナーがありました。サーバーのネットワーク機器などが目立ちましたが、当然そこにあるべき、ファーウェイやZTEなどの知名度のある会社が見当たらず、米中間の対立を背景にした政治的な現状を表しているのかなと思いました。



ただし、それらの中国製品が一掃されることは現実には困難だろうという印象を受けた展示会でした。

プリント基板供給は、24時間営業の地方の中小企業が支える

「株式会社 松和産業」は、三重県松阪市(松阪牛で有名)を拠点にする中小企業ですが、(少量多品種の)プリント基板を社内一貫製造する企業で、得意とする超短期納期の在り方を、機種別の種類と納期スケジュールを見本とともに公開していました。第1回次世代通信技術&ソリューション展には、様々の素材から完成品、あるいは装置分野の大手メーカーがひしめく程出展していたのですが、その中に混じってブースを出していました。



その松和産業の展示ブースのメインは、様々な品種名を挙げ、その受注日から発送に至る納期を一覧表にまとめたパネルでした。実は、そのパネルの数表はネットでも簡単に検索できます。企業の形態は、一般消費者を対象にするメーカーではなく、完成品メーカーや装置メーカーを相手にした24時間体制でオーダーを受けているとのことでした。プリント基板と言う部品メーカーにとって、オーダーに従って即座に製品を創り上げ、即納体制を取れるというのが、企業の命と言う姿を見せていました。改めて、そのブースの存在を見ると、この展示会に出店している大手企業自体を顧客に見立てている構えでした。

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2023年3月末までに104名が参加しました。

◎インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。